

## 落合陽一氏 総合監修の常設展示 「計算機と自然、計算機の自然」をリニューアル 生成 AI を応用した新展示を 4 月 1 日(水)に一般公開

にっぽんかがくみらいかん  
日本科学未来館(略称：未来館 館長：浅川智恵子)は  
大阪・関西万博シリーズ第二弾として、万博のシグネ  
チャーパピリオン「null<sup>2</sup> (ヌルヌル)」を手がけた  
落合陽一氏 (メディアアーティスト) が総合監修を務  
める常設展示「計算機と自然、計算機の自然」を一部  
リニューアルし、2026年4月1日(水)から一般公開  
します。

今回のリニューアルでは、展示エリアの中心にある  
二つのシンボル展示「計算機と自然」と「計算機の自  
然」を刷新するほか、大量のテキストから言語の構造  
を学ぶ「大規模言語モデル」を活用した生成 AI の展  
示と、裸眼 3D 立体視を応用した展示の二つを新たに公開します。

常設展示「計算機と自然、計算機の自然」は、コンピュータ (計算機) やそこで作動する人工知能 (AI) が高度に発達した未来において、私たちの自然観、世界観がどう変わるのかを問いかける展示として、2019年11月に公開しました。コンピュータなどのデジタル機器やソフトウェアの手法の進化によって、それらがつくりだす世界の解像度は私たちの知覚の限界を超えようとしています。このように自然と人工物との境界が溶け合い、デジタルとアナログが互いにその特性を高め合う状態こそが、未来の私たちにとっての「新しい自然」と捉え、その世界観を日常の常識を揺るがすような数多くの展示によって提示しています。



常設展示「計算機と自然、計算機の自然」

### 公開概要

一般公開日：2026年4月1日(水)

展示エリア：日本科学未来館 3階 常設展示ゾーン「計算機と自然、計算機の自然」

休館日：火曜日 (祝日、夏休み期間などは開館の場合あり)

※2026年10月1日から2027年4月22日までは施設整備工事のため休館

開館時間：10:00～17:00 (入館券の購入および受付は16:30まで)

料金：大人(19歳以上)630円、18歳以下(小学生以上)210円

※未就学児および18歳以下(小学生以上)の土曜日は無料

URL：<https://www.miraikan.jst.go.jp/exhibitions/future/digitallynatural/>

一般からの  
お問い合わせ先

日本科学未来館 〒135-0064 東京都江東区青海 2-3-6

TEL 03-3570-9151 FAX 03-3570-9150 URL <https://www.miraikan.jst.go.jp/>

メディアからの  
お問い合わせ先

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST) 日本科学未来館 経営戦略室 広報

EMAIL [press-miraikan@jst.go.jp](mailto:press-miraikan@jst.go.jp) TEL 03-3570-9192 FAX 03-3570-9150

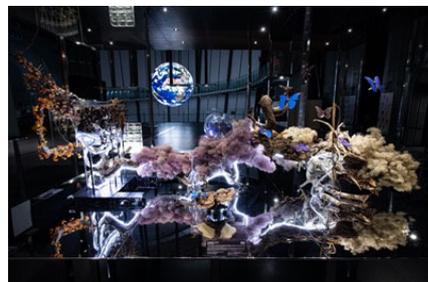
## 展示紹介

### 「計算機と自然」 <リニューアル>

印刷で再現された蝶が樹木や草花にひそみ、自然のものと、計算機がつくり出す人工物とが境界なく混ざり合った世界を体感できます。さらに生成 AI を用いて、割れた液晶のイメージが流動的に変容し続ける映像作品を追加しました。亀裂が液体のようにうねり、たえず形を変える様子は、物質と情報の境界が溶け合い、新たな存在が生み出される「計算機と自然」の世界観を視覚的に表しています。

#### クレジット

いけばな：辻雄貴（華道家、株式会社辻雄貴空間研究所）  
映像・インスタレーション：落合陽一（メディアアーティスト）  
構造色印刷：富士フイルムイメージングシステムズ株式会社  
蝶機構：国際ディスプレイ工業株式会社



計算機と自然（画像は旧展示）

### 「計算機の自然」 <リニューアル>

AI が活躍する代表的な分野の一つが画像生成です。AI はたくさんの画像から共通する特徴を学習し、世界のどこにもない新しい画像を生み出します。本展示は、大阪・関西万博の展示「null<sup>2</sup>」の新しい AI 技術を使った表現を応用したものです。ノイズ画像から鮮明な画像を復元するプロセスを学習する「拡散モデル」と呼ばれる生成 AI の技術によって、会場に設置したカメラが捉えた映像からリアルタイムに生成される映像をご覧ください。

#### クレジット

作：落合陽一（メディアアーティスト）  
テクニカルアシスタント：皆川達也



計算機の自然（画像は旧展示）

### 「話し相手が人間か機械か、どちらでもいいじゃないか」 <新設>

受話器に話しかけると、音声認識 AI がその言葉をテキストに変換し、文章生成 AI が内容に応じた返答を生み出します。さらに、音声生成 AI がその返答を、メディアアーティスト・落合陽一氏の声で読み上げます。この一連の応答の仕組みでは、大量のテキストから言語の構造を学ぶ「大規模言語モデル」と呼ばれる生成 AI 技術が軸となります。かつて黒電話の先にいたのは人間だけでしたが、いまや人間か機械かの違いは曖昧になりつつあります。

#### クレジット

作：落合陽一（メディアアーティスト）  
テクニカルアシスタント：佃優河



落合陽一「ファントムレゾナンス（オブジェクト指向菩薩）」, 2023 年

## 「これは計算機の中と外、どっち？」 <新設>

特殊なメガネを使わずに立体映像を体験できる、裸眼 3D 立体視を応用しています。カメラが最も近くにいる人の両眼の位置を追跡し、その視線に合わせた映像をモニターに表示し続けることで立体感を生み出します。実体のある彫刻と立体的なデータが一つにつながったこの作品は、リアルとバーチャルの境界をさぐる新しい体験を提示します。

### クレジット

原案・制作：横山拓巳（筑波大学）、筑波大学デジタルネイチャー開発研究センター

データ提供：Stanford Computer Graphics Laboratory

### <常設展示「計算機と自然、計算機の自然」の一部展示の公開終了について>

リニューアルに伴い以下の展示は公開を終了しました。

- ・昔も今も色は一緒？
- ・ここは計算機の中と外、どっち？